



製造業安全対策に関するトップ会談

セッション2. 経営理念と安全対策

2017年9月28日

一般社団法人 日本化学工業協会
会長 石飛 修



化学業界共通の理念



世界的な化学業界の活動：レスポンシブル・ケア活動

化学品を取り扱う企業が、化学品の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至るすべての過程において、環境・健康・安全を確保し、その成果を公表し、社会との対話・コミュニケーションを行う自主活動

日本化学工業協会のレスポンシブル・ケア活動

「環境・健康・安全に関する日本化学工業協会基本方針」

1. 経営層自ら強いリーダーシップを発揮し、国内外での環境・健康・安全の確保に努める。

例) トップダウン：理事会の場で防災安全実績・対応状況の共有
ミドルアップ・ミドルダウン/ボトムアップ：人材育成 各種教育

住友化学の活動

「安全、環境、品質に関する基本方針」 安全をすべてに優先させる

安全文化 ・グラウンドルール策定

安全基盤 ・事故ポテンシャル撲滅作戦

活動のフィードバック（監査）

・全般	：社内内部監査
・保安防災	：保安力向上センター（外部）
・安全衛生	：中災防OSHMS（外部）



安全基盤の確立

安全基盤



化学メーカー・協力会社が一体となって、安全基盤の確立に取り組む

人	危険予知活動等、各種安全活動の推進
	リスクアセスメント能力の向上
	災害事例検討と教訓の水平展開
設備	本質安全設計
	保全の適正化 (予防保全、定期点検の活用 等)
	計測点の強化 (IoT、AIの活用)
管理	トップが参加の安全パトロール、安全表彰
	4 M変更管理の徹底
	各種監査による活動の評価(PDCA)
	事故情報の社外への発信 ⇒ 事故情報の共有

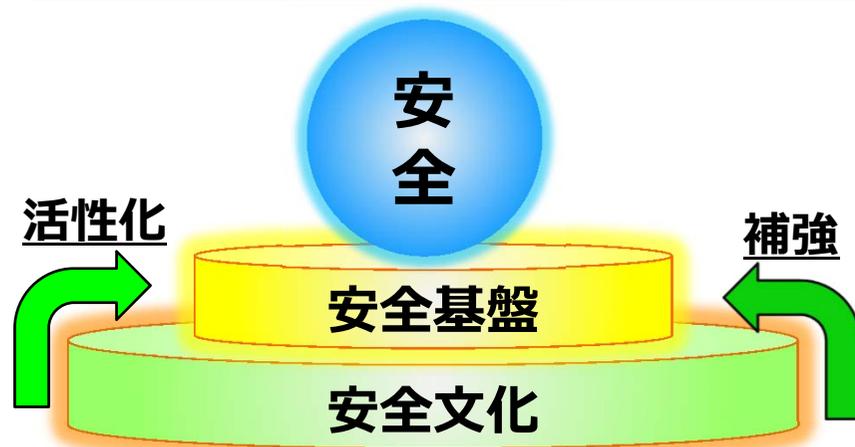
日化協の活動例 (業界として各社への情報共有 & 横軸的役割)

コア人材の育成 : 安全文化を考慮した産業安全や現場力の強化
 産業安全塾、日化協安全シンポジウム、現場リーダー研修、ケミカルリスクフォーラム 等

保安・安全教育 :
 保安事故防止ガイドライン (直接原因のみでなく、組織要因 (背後要因) にも着目)
 事故説明DVD教材、ベストプラクティス集、労働安全実態調査による災害事例共有 等



安全文化の浸透



安全文化は
社会とともに
作るもの 育むもの

社会における教育、訓練
⇒ ルールの遵守、思いやりの醸成

図：田村 昌三 編著「産業安全論」(化学工業日報社)より

安全基盤を活きたものとするべく、

「安全が当たり前となる文化」を作り上げる。

会社におけるトップの役割 ⇒ 『リーダーシップ・コミットメント』

ミドル管理層の役割 ⇒ 『管理基盤の補強』

第一線の役割 ⇒ 『気づき』と『実践』

各自が持ち場立場でしっかり安全行動を習慣化する！

外部の方々から安全基盤、安全文化を継続的に

監査・評価していただき、安全を担保してゆく。

ご安全に！



一般社団法人 日本化学工業協会

Japan Chemical Industry Association

10/23は化学の日

